

# 災害に強い道路ネットワークの確保

～事前通行規制区間の回避～

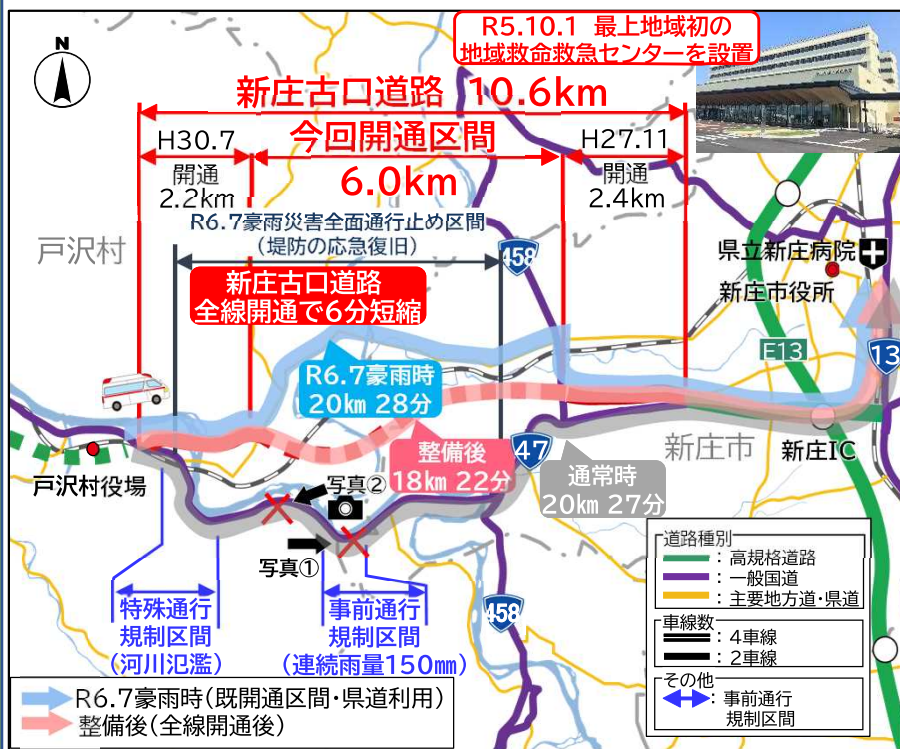


- ◆戸沢村における重篤患者の多くは、県立新庄病院へ救急搬送される際に国道47号を利用。
- ◆新庄古口道路の並行現道区間には、事前通行規制区間が存在し、また、令和6年7月豪雨時に全面通行止めが発生。  
戸沢村からの救急搬送では迂回が強いられ、新庄古口道路の既開通区間及び県道を利用。
- ◆新庄古口道路の整備により、事前通行規制区間を回避し、災害時でも救急搬送を支援する、災害に強い道路ネットワークを確保。

(通常時27分⇒災害時28分⇒全線開通時22分)

## ■救急搬送ルート「戸沢村役場～県立新庄病院」(R6.7豪雨時)

## ■災害発生状況(R6.7豪雨時)



## ■搬送時間と生存率(心筋梗塞の例)

【搬送時間】		【生存率】	
37分	→	31分	約56% → 約66%
(6分短縮)		(約10%増加)	

資料:令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査昼間12h旅行速度で算出  
※戸沢村役場～県立新庄病院間で算出、事業中区間は70km/hで算出

※搬送時間は発生から通報にかかる所要時間の  
平均値(8.5分)を加えた値  
※道路整備による救急医療改善効果、藤本ら  
(交通工学、2010年9月)参照

## 管内消防本部の声



- 戸沢村における重篤患者の多くは、県立新庄病院へ救急搬送を行うことが多い。
- 脳疾患や心筋梗塞では、病院収容までの時間が救命率の向上・後遺症に大きく関わってくる。
- 豪雨時は視界も悪く、通行止めに限らず、道路の冠水などに注意しながらの搬送のため危険がともない搬送時間も通常時よりかかってしまった。
- 新庄古口道路の整備により、災害に強く信頼性の高い道路となれば、搬送時間の短縮とともに、災害時の搬送における支障が大幅に軽減されると考えられる。

資料:ヒアリング結果(R6.9)